

災害への 備えはOK!?

防災の“特効薬”はありません。
日常の努力の継続が、あなたの命を守ります。

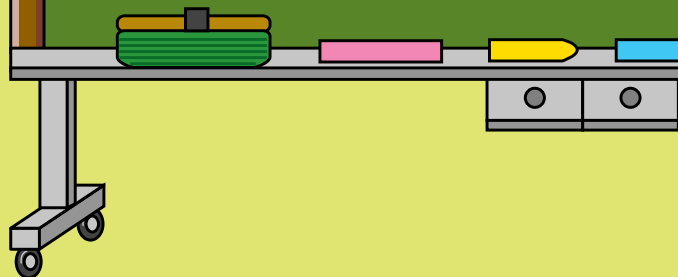
〈三重県に被害を及ぼした主な自然災害〉

- | | |
|----------------------|----------------|
| 1944年 東南海地震 | 全国でも… |
| 1959年 伊勢湾台風 | 1995年 阪神・淡路大震災 |
| 2004年 台風21号豪雨 | 2004年 新潟県中越地震 |
| 2011年 紀伊半島大水害(台風12号) | 2011年 東日本大震災 |
| 20XX年 南海トラフ地震? | 2016年 熊本地震 など |

「いつでも、どこでも、だれでも」災害にあう時代

ポイント

事前の準備が大切です!



なます博士

地震・津波・風水害に備えよう!

三重県

三重県で過去に起きた大災害

伊勢湾台風

昭和34年9月21日にマリアナ諸島の東海上で発生した台風第15号は、非常に広い暴風域を伴って北上し、26日午後6時過ぎ和歌山県潮岬の西に上陸しました。上陸後6時間余りで本州を縦断し、全国的に大きな被害をもたらしました。特に伊勢湾周辺地域での被害が大きく、後に「伊勢湾台風」と命名されました。木曾三川のデルタ地帯にある木曾岬、桑名市長島町では押し寄せた高潮により堤防が決壊し、この地帯だけでも800人を超える方が亡くなりました。

9月26日は
「みえ風水害対策の日」



三重県内の被害概要

死者・行方不明者:	1,281人
負傷者:	5,688人
住家全壊:	5,346棟
住家半壊:	17,585棟
住家浸水:	62,655棟

出典:伊勢湾台風50年誌

伊勢湾台風の気象特性

上陸時中心気圧:929.2hPa
上陸時風速:45.4m/秒(伊良湖岬)
高潮:3.55m(名古屋港)
波高:8~10m(湾外) 2.4m(名古屋港外)

出典:中央防災会議災害教訓の継承に関する専門調査会資料より作成



桑名市長島町の被害状況(提供:輪中の郷)

東南海地震

昭和19年12月7日午後1時35分頃、熊野灘を震源として発生したマグニチュード7.9の巨大地震で、三重県や愛知県、静岡県を中心に大きな被害をもたらしました。県内被害のうち人的被害は津波によるものが多く、津波の高さの最大は尾鷲市賀田の9.0mでした。戦時中の情報統制下において発生した地震ということもあり、被害の詳細については十分に明らかになっていません。

三重県内の被害概要

死者・行方不明者:	373人
負傷者:	607人
住家全壊:	3,376棟
住家流失:	2,238棟

参考:「日本被害地震総覧599-2012」
(東京大学出版会)



12月7日は
「みえ地震対策の日」



尾鷲市の被害状況(提供:太田金典氏)

知る

風水害

台風や集中豪雨が原因となって起こる災害

洪水

大雨によって河川の流量が増大し、堤防の決壊などにより氾濫します。

土砂災害

長雨や集中豪雨により、土石流、地すべり、がけ崩れが発生します。

暴風

風速15m以上で風に向かって歩けなくなり、風速25m以上で屋外での行動は危険となります。

高潮

台風の接近に伴って発生することが多く、海水面が異常に上昇します。



平成16年豪雨災害(旧宮川村地内)



平成23年紀伊半島大水害時の相野谷川の氾濫(紀宝町地内)

地震

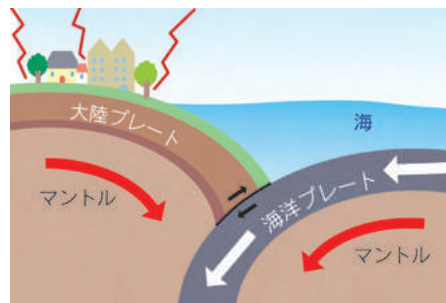
地震を知る

海溝型地震

陸側のプレートの下に海側のプレートが沈み込む海溝やトラフ付近で、プレートの境界がずれ動くことによって起こる地震

- ・大きな揺れが長く続く
- ・大津波が襲ってくる可能性が高い
- ・南海トラフ地震の場合、概ね100~150年間隔で繰り返し発生

例) 東日本大震災(平成23年)、南海トラフ地震 など



内陸直下型地震

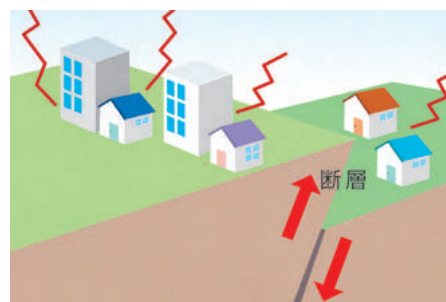
発生した場合、最大で
死者53,000人 全壊・焼失248,000棟

三重県地震被害想定
調査結果(平成25年)

陸地の比較的浅いところで、活断層がずれ動くことなどによって起こる地震

- ・海溝型地震に比べて揺れている時間は短い、ずれ動いた活断層の近くでは、はげしい揺れとなることがある。
- ・活動間隔は海溝型地震に比べて長く、千年~数万年程度である。

例) 阪神・淡路大震災(平成7年)、新潟県中越地震(平成16年)、熊本地震(平成28年)など



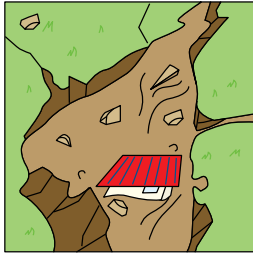
知る

土砂災害を知る

土砂災害には、主に、①土石流 ②地すべり ③がけ崩れの3つがあります。

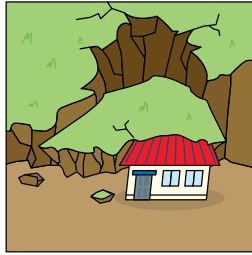
三重県は、土砂災害の発生しやすい地形・地質特性を有しているため、集中豪雨や台風により過去に大きな災害に見舞われました。日常から危険箇所を確認してください。

土石流



山、川の石や土砂が集中豪雨などによって一気に下流へ押し流されます。

地すべり



粘土などすべりやすい地層に地下水が作用して、地面がゆっくりすべて動き出します。

がけ崩れ



集中豪雨などにより急な斜面が崩れ落ちます。

お住まいの地域の土砂災害危険箇所は、ホームページから確認できます

三重県土砂災害情報提供システム

検索

こんな前ぶれに注意

- 川の流れが濁り流木がまざりはじめる。
- 斜面から水がふき出す。
- 地面にひび割れができる。
- 沢や井戸の水が濁る。
- 雨が降り続けているのに水位が下がる。

津波を知る

南海トラフ地震など海溝型地震が発生した場合、津波が発生する可能性があります。海辺で地震を感じたら、揺れが小さくても、すぐに高い場所へ避難することが大切です。

津波の特徴

- ◎津波の速さはとても速い。
- ◎引き潮で始まるとは限らない。
- ◎津波の高さは場所によって違う。
- ◎繰り返しやってくる。第1波が最大とは限らない。
- ◎川や水路をさかのぼる。
- ◎たとえ30cm程度の津波でも避難行動がとれなく(動くことができなく)なる



東日本大震災 宮城県山元町地内

- ① 海洋プレートが大陸プレートの下に沈み込んでいます。
- ② 地震の際、海底の隆起や沈降が起こり海水が動かされます。
- ③ 海水は津波となって四方八方へと広がり伝わっていきます。津波の伝わり方は、海が深いほど速く、海が浅いほど高くなります。

東日本大震災では、防波堤等を過信したり、避難した後に忘れ物を取りに自宅に戻ったり、津波ハザードマップの危険エリアの外にいた人が安心感を持ってしまうなどとして、迅速かつ的確な避難ができなかった例が指摘されています。

備える

災害に日頃から備える「防災の日常化」

家族で防災会議を開く

家族の役割分担、避難場所、避難経路、家族との連絡方法などを家族全員で確認しましょう。



テレビやラジオでの
情報収集



非常
持ち出し品の用意



火元の管理

大規模な災害が発生して電話が繋がりにくい時は、安否の確認や連絡用手段として「災害用伝言ダイヤル」を活用しましょう。



災害用
伝言ダイヤル **171**

「171」を押した後、ガイダンスに従って、伝言の録音・再生を行ってください。

録音…① 再生…②

防災マップで、家の付近の危険箇所や安全な避難経路、避難所などを、日頃から確認しましょう！



学校や職場からでも、家族一人ひとりが確実に避難することを確認し合い、迎えに行った家族が被災するようなことのないようにしましょう。

非常持ち出し品を用意する

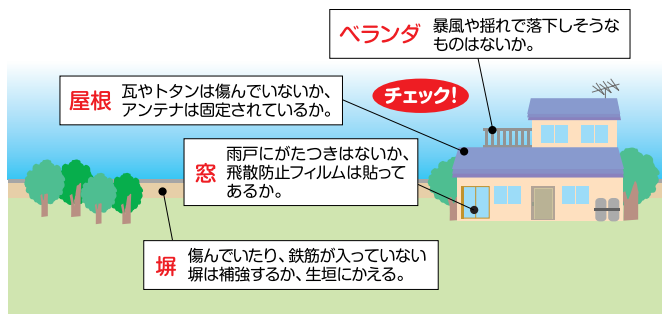
家族構成に合わせて非常持ち出し品を用意しておきましょう。また、少なくとも一年に一度は点検しましょう。

飲料水、食料(乾パンや缶詰など)、ヘルメット、防災ずきん、救急セット、常備薬、タオル、衣類(上着・下着類含む)、携帯ラジオ、懐中電灯、現金(小銭等)、携帯電話の充電器・バッテリー、つえ等個別に必要な物

自動車の燃料は半分になったら給油する習慣をつけましょう。

住まいの点検をする

災害に備えて、屋根や雨どい、外壁など住まいの点検を行いましょ。



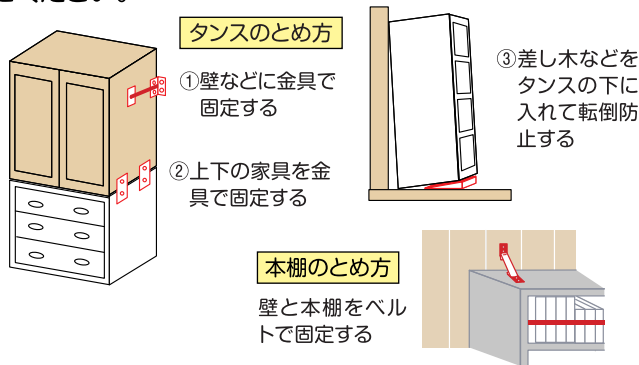
住宅の耐震化

阪神・淡路大震災では、古い木造住宅が多く倒壊しました。三重県内の各市町では、昭和56年5月31日以前に建築(着工)された木造住宅の無料耐震診断や補強工事等に対する補助を実施していますので、ご利用ください。

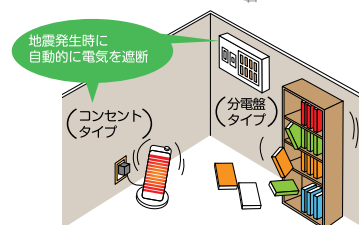
また、被災した際に、住宅の修理や建て替える資金の足しにしたり、当面の生活費を工面できるよう、地震保険に加入しておくのも有効な手段です。

家具の転倒防止

家具は、金具等で固定し、転倒防止対策を行いましょ。また、寝る場所には、家具を置かないようにするなど配置を工夫して備えてください。市町によっては、家具固定費用に対して補助を実施していますので、お問い合わせください。



地震発生時や電気復旧時の火災発生を防ぐため、感震ブレーカーを設置しましょ。



行動する

危険を感じたら、すぐ避難する

災害時には市町長が避難勧告や避難指示(緊急)を発令する場合がありますが、災害時の避難で何よりも大切なのは、危険を感じたら自らの判断で避難することです。自分の家の立地、家屋の状況、家族の事情を考え、行動できるうちに早めに避難しましょう。

避難準備・高齢者等避難開始

災害時要援護者(体の不自由な方、高齢者、乳幼児など)など、避難行動に時間を要する方は避難行動を開始します。

避難勧告

通常の避難行動ができる方は、避難行動を開始します。

避難指示(緊急)

避難勧告よりも緊急度が高い場合に発令されます。事実上の避難命令に等しいものです。



前は大したことなかったし、近所の人もまだ家から出てこないから、避難しなくていいや。



川が近いし、足の不自由なおじいちゃんも心配だから、雨が降り出す前に避難しよう。

避難するときの注意点

- 運動靴を履く
- 動きやすい格好で
- 2人以上で行動
- 足下に注意する
- 高齢者や幼児を優先

地震が発生したら

3秒

地震だ!

- 落ち着け
- 身をかかせ



3分

揺れがおさまった

- 家族は大じょうぶか
- ラジオをつける
- 火元の確認
- 靴をはく
- 津波から避難(より早く・遠く・高くへ)



3時間

みんな無事か

- 余震に注意
- 隣近所で助け合おう
- ブロック塀やガレキに近づくな
- 漏電、ガス漏れに注意



3日

無理はしない

- 水・食料は備蓄でまかなえ
- 行き先メモを玄関に
- 災害情報を入手
- こわれかけた家に入るな



防災・減災に向けて「備え」「行動」しよう

南海トラフ地震の発生が危惧されるとともに、三重県では内陸の活断層による地震にも注意が必要です。また、風水害もますます激化しており、全国各地で大きな被害がでています。

災害発生時の被害を最小限に食い止めるため、「三重県防災対策推進条例」の基本理念である自助・共助・公助のもと、日常から「備え」「行動する」ことで、災害に強い安心安全な三重県を築いていきましょう。



自主防災活動に参加しよう

地域で行う日常の活動

- タウンウォッチングをして、地域の危険箇所を知る。
- 災害図上訓練をして、災害が発生した時の対応を地図上で考える。
- 災害時要援護者(体が不自由な方、高齢者、乳幼児など)の支援方法を決めておく。
- 車の使い方(乗り合わせなど)を決めておく。
- 津波避難計画や避難所運営マニュアルを作成し、災害に備えた実践的な訓練を継続的に実施する。

災害時の活動

- 初期消火や救出援護活動を行う。
- 災害時要援護者の安否確認・避難誘導を行う。
- 避難所の運営(避難所生活のルールづくり、物資の配分、炊き出し、清掃など)を、役割分担をして積極的に行う。
- 避難所では、女性に配慮し、高齢者や障がい者などへのサポートを心掛ける。



◆Myまっぼらん
地域で協力して、一人ひとりの津波避難計画であるMyまっぼらんを作成しよう!



防災みえ.jp

<http://www.bosaimie.jp> へアクセス!



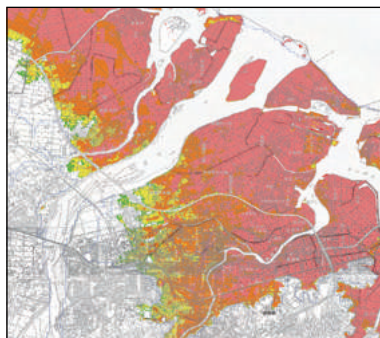
気象情報や被害情報、避難情報などを
携帯電話、パソコンから
ご覧いただけます

三重県内のお住まいの地域の活断層図や
津波浸水予測図がご覧になれます

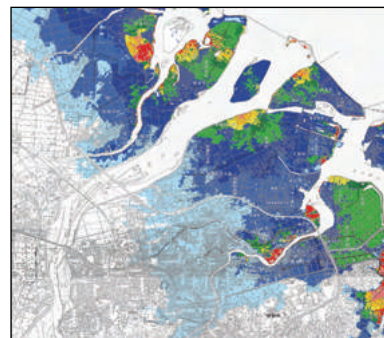
メール配信サービス

注意報・警報、台風情報、
地震情報などがメールで配信されます。

登録方法 / a@bosaimie.jp へ
空メールを送信



津波浸水予測図



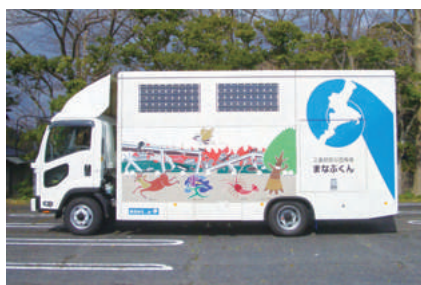
(伊勢市) 津波浸水深30cm到達
予測時間分布図

津波がきたら「どこまで逃げなければいけないか」、「いつまでに、どの方向に避難しなければならないか」を確認できます。

防災啓発車を体験しよう!

南海トラフ地震や過去に起きた阪神・淡路大震災などの震度を体験することができます。
お住まいの地域の防災訓練や防災教育にご活用ください。

〈防災啓発車・まなぶくん〉



予約方法

依頼者

市町防災担当課・消防本部

三重県

※防災啓発車の予約申込みは、お住まいの市町防災担当または消防本部にご相談ください。

三重県・三重大学 みえ防災・減災センター
〒514-8507 三重県津市栗真町屋町1577
TEL 059-231-5694 FAX059-231-9954

三重県防災対策部
〒514-8507 三重県津市広明町13番地
TEL 059-224-2185 FAX059-224-2199